

第 1 回審議会での意見

1 前期戦略計画の検証に係る審議会での主な意見

① デジタル化による行政情報のアクセス性の向上

- ・市の公式LINEの開設やホームページのリニューアルによって、行政情報へのアクセシビリティが大きく向上し、市民にとって利便性が高まった。

② 地域コミュニティの低下、担い手不足

- ・自治会加入率が年々低下しており、自治会への参加意識は、世代間で大きな差が生じている。特に、若年層の意識が低く、自治会における役割分担や負担の在り方を見直す必要があるのではないかと。
- ・自治会のみならず、PTAや各種団体などにおいても加入率の低下が見受けられ、担い手となる世代の敬遠が見受けられる。
- ・自分たちが住んでいる地域を良い状態に保つため、自治会が苦勞しながら取組を進めており、若い人たちには、他人事ではなく、自分ごととして捉えてほしい。
- ・防災や地域の見守りなど、自治会の必要性やメリットを整理して、未加入者に働きかけができるよう取り組む必要がある。
- ・登校時の見守り活動を通じて、保護者同士に新たなコミュニティが生まれ、こうした取組をきっかけにまちづくりへの参画意欲が自然発生的に生まれることが望ましい。

③ こどもを核としたまちづくり

- ・明石の子育て施策については、多くの負担軽減となっており本当に感謝している。
- ・子育て世代の人口流入など、現在の好調な明石のまちの状況を継続するためにも、引き続き、こどもを核としたまちづくりを重点的に推進してもらいたい。
- ・各企業で育児支援制度を取得しやすい環境づくりや兄弟が同じ保育所に通る配慮など、優秀な女性がキャリアを継続することができるようきめ細かな施策の推進を求める。
- ・こどもの貧困は身近に存在しており、こども食堂への支援など、こどもの貧困対策についてさらなる強化に取り組むべきである。

④ インクルーシブ施策の推進

- ・障害当事者の声を様々な施策で反映いただけていることにとても感謝している。
- ・SDGsの理念からもインクルーシブ教育のさらなる推進を求める。

⑤ 持続可能な財政運営

- ・市役所新庁舎や新ごみ処理場のほか、市民病院や卸売市場、旧市立図書館跡地など、将来の人口減少を見据えた事業の必要性や費用対効果の検証など、十分に検討して持続可能な財政運営を目指す必要がある。

⑥ まちの魅力やにぎわいの創出

- ・本のまちづくりについて、新しい図書館ができ、本に触れる機会や場所が増えたことは大変うれしい。単に本を読み、借りるだけでなく、図書館や本を通じた新たな出会いやコミュニティが生まれる取組を推進してほしい。
- ・古い家が空き家として放置されていくことは課題である一方で、SDGsの理念からも古い家を生かした新たな住まいづくりを推進していく必要がある。

⑦ 新たな環境問題への対応

- ・PFAS問題など、従来とは異なる新たな環境課題に引き続き的確に取り組む、安全対策に関する情報発信に努めてほしい。

2 後期戦略計画骨子（案）に対する審議会での主な意見

① まちづくり協議会の役割と支援

- ・明石のまちづくり協議会は、全ての小学校区に設置されており、その活動状況は全国でトップクラスであり、地域におけるまちづくりの中心的な役割を果たしてきた。自治会への加入率低下など地域コミュニティの課題が指摘される中で、その機能を果たし続けていけることができるよう、まちづくり協議会の位置づけと支援策を後期戦略計画に記載すべきである。
- ・共創という視点で、より効果的にまちづくりを展開する観点から、まちづくり協議会と各団体が連携した取組を推進していく必要がある。

② 市民主体・市民全員参加型のまちづくりの推進

- ・「市民目線」という表現は、行政が市民視点に基づいてまちづくりを進めるという意味に留まることから、例えば、「市民主体のまちづくり」や「市民全員参加型のまちづくり」などに表現に改め、地域への愛着や市民が主体的に地域で活動する姿等を表す表現に変更すべきである。
- ・多様な市民参画を促進するためには、タウンミーティングなどの対話の場の充実が重要ではあるが、参加者の拡大と寄せられた意見に対する施策反映のプロセスを可視化することで、市民の主体性を醸成できるのではないかな。

③ 安全・安心のまちづくりの強化

- ・近年の気候変動に伴う災害リスクの高まりを踏まえ、防災・減災対策の強化が必要であり、自助・共助の推進を計画に盛り込むべきである。具体的には、避難支援体制の構築や地域の防災活動の推進などが重要と考える。
- ・犯罪の抑止や交通安全など、市民の安全・安心をどのように確保していくのか計画に示す必要がある。

④ 質の高いインクルーシブな教育の推進

- ・明石市はインクルーシブ条例を制定し、インクルーシブ教育を推進していくことを掲げているが、前期戦略計画上には記載がないため、後期戦略計画ではきちんと明記すべきである。

⑤ **コンパクトシティのまちづくり**

- ・都市計画マスタープランや交通総合計画などにおいて、コンパクトシティの考え方が示されている。明石市においても将来的に人口減少を迎えることとなることから、行政サービスの集約化と施設整備の方向性を本計画の中で記載すべきと考える。
- ・市内には、官民間わず、様々な機能を持った施設が立地しており、こうした施設の機能統合や連携を図るなど、施設の適正配置をより一層進める必要がある。

⑥ **ウェルビーイングの視点の反映**

- ・現代社会において、心の豊さを表すウェルビーイングを追求する視点が求められてくると考えられるので、後期戦略計画においてもウェルビーイングの観点を取り入れるべきである。

⑦ **子育て支援の更なる拡充**

- ・こどもを核としたまちづくりの先にある様々な課題に対応するため、こどもを育てながらも女性が働きやすい環境の整備やこども・若者の貧困対策の重要性を位置づけるべきである。

⑧ **住みたい、住み続けたいまち明石の実現**

- ・子育てを終えてもなお、明石市に住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりに取り組むことが重要で、大学や就職等で明石を離れても、また帰って来ることができる魅力ある、働きがいのある明石を考えていく必要がある。
- ・高齢者の方が残された人生を明石で終わりたいと思えるよう、高齢者にも魅力あるまちづくりを展開すべきである。

⑨ **K P I の設定**

- ・「循環型社会の実現」に向けて、市民一人一日当たりのごみの排出量をK P Iとして設定しているが、市民の取組を推進する観点から家庭系ごみと事業系ごみを分けてK P Iを設定すべきである。
- ・「計画の推進」においては、K P Iが設定されておらず、多様な市民参画に基づく取組の進捗を把握するため、新たに障害当事者の審議会委員への登用や女性委員の割合など市民参画条例やジェンダー平等条例に基づく取組をK P Iとして設定してはどうか。